

## 京城跡とは

### 位置

京城跡は、紀宝町の中央を流れる相野谷川の中流域にある平山城跡です。相野谷川に支流の相野川が合流するこの地点は、相野谷川流域の要とも言える場所です。東、北、西面には堀切・切岸・塹堀を造作しており、北山道を経由した北山方面からの攻撃に備えたものだと考えられます。

### 歴史

相野谷川流域は室町時代以前は相野荘と呼ばれ、熊野三山の荘園でした。京城は、地域の実力が蓄えられてきた室町時代後半ごろに、新宮の支配から独立した地域の有力者によって築城されたと考えられています。京城が築城される以前のこの山は、地域の人びとが墓地として利用していた「聖地」だったそうです。



京城跡の位置

### 年表

時代	主な出来事
縄文時代	相野谷川流域沿いを中心に弥生人が居住 (遺跡から出土品が多数発見)
弥生時代	
古墳時代	
飛鳥時代	
奈良時代	710年 元明天皇が平城京に遷都
平安時代	794年 桓武天皇が平安京に遷都 上皇・貴族らの熊野詣が盛行 相野荘が設立?
鎌倉時代	1185年 壇ノ浦の戦いで平家滅亡 1185年 文治の勅許で源頼朝が朝廷から守護・地頭の設置を認められる
南北朝時代	1331年〜1333年 元弘の乱で北条氏滅亡 1333年 後醍醐天皇による建武の新政 南北朝の動乱期 相野谷川流域や鶴殿城跡で合戦の記録 14世紀後半、現在の大里集落北東部に集落が営まれる (羽山地遺跡)
室町時代 (戦国時代)	1392年 明德の和約で南北朝統一 1336年 足利尊氏が光明天皇を擁立し、室町幕府を開く 1382年 相野荘の名が史料にはじめて登場 15世紀後半から16世紀前半 京城が築城? 1573年 足利義昭が織田信長に追放される
安土桃山時代	16世紀後半 堀内氏善により京城改変? 1600年 関ヶ原の戦いで徳川家康が勝利 1600年 堀内氏善、京城に立て籠もる 1603年 徳川家康が江戸幕府を開く 1615年 堀内氏義、肥後国(熊本県)で死去 東京寺が建立
江戸時代	1867年 徳川慶喜による大政奉還

※京城跡周辺に関するものは緑色で記載

## 京城跡の謎

北山道の要衝に位置し、熊野地方において有数の規模を誇った京城跡ですが、詳しく記された文献は見つかっていません。そのため、不明な点も数多く存在しています。

### 謎 その1

#### いつ、誰が建てたのか?

1つ目の謎は京城が、いつ誰の手によって築かれたものかということです。

紀伊続風土記には、天正13年(1588年)に豊臣秀吉の臣下、堀内氏善氏の手によって建てられたとの記述があります。

しかし、この書物は、江戸時代に書かれたものであるため真相は不明です。

また、敷地内には文明13年(1481年)の舟形地蔵が存在することなどから、それより古い時代に建てられたのではないかと考えられています。

### 謎 その2

#### 名前の由来は?

2つ目の謎は名前の由来です。この熊野地方にある城に、どんな由来があり、なぜ「京」城という風流な名前がつけられたのでしょうか。

文献には名前の由来が記されていないため、歴史に詳しい方に、どのような理由が想像できるか、少しお話を伺ってみました。

平安時代の後期から9名の上皇や法皇などが102回も熊野三山を訪れていたそうです。この地は、速玉大社から近く、かつては熊野川から相野谷川へ舟を使った交通が盛んでした。そのため、熊野川から熊野三山詣に訪れた高貴な身分の方々が滞在した地だからではないかというお話や、昔から穀倉地帯であったため作物が多く採れて、裕福な穀倉地帯であったため、京にあるようなきれいな建物が造られたのではないかというお話でした。

詳細はわかりませんが、自分たちでいろいろな想像を膨らませてみるのも楽しいのではないのでしょうか。

### 謎 その3

#### 周辺の史跡などとの関連は?

8〜9ページに紹介していますが、京城跡と同じ丘陵には、昔から齋ヶ丘神社や東泉寺跡の史跡が存在していました。

また、南側には羽山地遺跡という遺跡もあるほか、ふもとの民家には昔、築かれた立派な石垣が今も残っています。ほかにも、この地には昔から伝わる多くの史跡が今も残されています。

京城跡はこれらの歴史遺産とどのように関わり、繋がっていたのでしょうか。

#### 京城跡に由縁の深い武将

### 堀内氏善 (1549年〜1615年)

堀内氏善は、戦国時代末期、新宮を根拠に古座付近から紀伊長島付近まで3万石(実高6万石とも言われる)、を支配した戦国大名です。

氏善は新宮城主だった氏虎の次男として生まれました。熊野有馬家へ養子として送り込まれ、南牟婁郡、熊野市の大部分、尾鷲市の一部を手中に収めました。その後、父氏虎と兄氏高が相次いで亡くなり、家督を継ぎ新宮城主となりました。

天正13年(1585年)および天正16年(1588年)に北山一揆が起きた際、その対策として京城を築城したとされていますが、詳細は不明です。

慶長5年(1600年)関ヶ原の戦いにおいて西軍に味方しましたが、戦場に到達する前に西軍の敗報を聞き帰参。その後、和歌山城主桑山茂晴配下に新宮城を攻められ降伏しました。領地を没収され、肥後の加藤清正のもとへ送られるまでの間、一時京城に滞在したとされています。